


講座番号  
2

## 日本城郭史上における 犬山城と名古屋城

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・生涯学習センター研修室  
 費用：受講料600円  
 講師：名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授 麓 和善

犬山城天守は、日本城郭史上最初期の天守として知られ、また名古屋城天守と本丸御殿は、城郭建築の最高到達点ともいえます。全国の城跡の整備や復元に関わっている講師が、全国の城郭建築と比較しながら、犬山城天守および名古屋城天守と本丸御殿のすばらしさを、豊富なスライド写真を用いて、具体的にわかりやすく解説します。

10/6(土)	<b>古さが際立つ犬山城天守</b> 犬山城天守は、現存最古の天守といわれてきましたが、それを否定する新説もあります。ところが、木組の方法や木材加工方法に注目すると、その古さが際立っています。新たな研究で分かった犬山城天守の古さを解説します。	
11/10(土)	<b>最大最高の天守 名古屋城天守</b> 名古屋城天守は、城郭建築のみならずわが国の木造建築の最高到達点ともいえます。なぜこのような大規模な天守が作られたのか、どのような技術でそれが実現したのか、名古屋城天守の真のすばらしさを解説します。	
12/22(土)	<b>至高の御殿建築名古屋城本丸御殿の見どころ</b> 復元工事を終えた名古屋城本丸御殿が、今年6月から全面公開されていますが、その見どころはどこか。確かに豪華な装飾に目を奪われますが、見どころがわかれば、もっとその素晴らしさがわかってきます。至高の御殿建築といわれるその理由を解説します。	

講座番号  
3

## 脳と心 -行動経済学と神経経済学-

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・生涯学習センター研修室  
 費用：受講料600円  
 講師：名古屋大学大学院 情報学研究科 教授 大平英樹

私たちは、商品を購入したり、投資をしたり、人生の岐路に立った場合に、常に合理的な選択を行うわけではありません。直観や感情に影響され、時には不合理な選択をしてしまうこともあります。そうした人間ならではの選択の原理は、行動経済学という分野で研究され、最近注目を集めています。また、その背後にある脳機能を研究する神経経済学という分野も立ち上がっています。講座では、そうした最近の知見をわかりやすく解説します。

1/12(土)	<b>価値と意思決定</b> 私たちは、いろいろな選択肢の望ましさを「価値」として比較し選択をします。時には、「結婚か仕事か」など本来比較できないはずのものを比べて選択することもできます。そうした価値と意思決定の仕組みを解説します。
2/9(土)	<b>リスクを伴う意思決定</b> 日常生活では、投資、ギャンブル、災害時の避難など、得られる利得と被る損失がはっきり見通せない中で選択を迫られる場合があります。そうしたリスクを伴う意思決定において、人間がどのように振る舞うのかを紹介します。
3/16(土)	<b>ニューロ・マーケティング</b> 行動経済学や神経経済学の研究成果を、商品開発や宣伝・販売に応用しようとするのがニューロ・マーケティングです。現実に企業が行っている事例から、ニューロ・マーケティングが社会を変える可能性について考えます。

## 月から読み解く 地球と太陽系の歴史

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午後2:00～3:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料600円  
講師：名古屋大学大学院 環境学研究科 講師 諸田智克

月は地球のそばでつくられ、地球とともに進化してきた天体です。月では地球のような地質活動が活発ではないため、表面は古く、過去40億年以上に及ぶ地球と太陽系の歴史を表面地形に残しています。講座では、月から読み解かれる太陽系の進化史と地球の水の起源、そしてそれらを探るミッションを持った探査機「はやぶさ2」について紹介します。

10/28(日)	<b>月の形成と歴史</b> 月はどのようにしてできたのか？どのように進化してきたのか？過去に多くの月探査によって詳細に調べられてきたにも関わらず、未だ多くの謎が残されています。月に関する最新の理解と未解決問題について解説します。
11/18(日)	<b>月からわかる太陽系の歴史</b> 月の表面は古く、過去40億年以上にも及ぶ太陽系の歴史を表面地形として残しています。月から読み解かれる太陽系の進化史はどのようなものか？さらに地球の海や生命の材料物質はどのように地球にもたらされたのか？について解説します。
12/16(日)	<b>月を越えて小惑星へ 小惑星探査機「はやぶさ2」</b> 太陽系の歴史や地球の海の起源などの問題に迫るため、小惑星探査機「はやぶさ2」は小惑星リュウグウを調査し、サンプルを持ち帰ります。「はやぶさ2」プロジェクトに関わる講師が、その探査と科学目的について解説します。



## 気象学入門

定員・回数：60人・2回  
時間・場所：午前10:00～11:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料400円  
講師：気象予報士 寺尾直樹

毎日の暮らしに欠かせない気象情報。情報番組でおなじみの講師が、季節の気象トピックスを取り上げながら、暮らしに寄り添った気象の話題を解説します。

11/11(日)	<b>天気予報の仕組み &amp; この冬の気象情報</b> 天気予報は、気象データをどのように活用して作られるのでしょうか。雨や雪、風などの予報の仕方や天気図の見方などを交えてお話しします。
1/27(日)	<b>気象予報士試験とは？ &amp; 春に向けての気象情報</b> 合格率が毎回4%台といわれる気象予報士試験。気象予報士になるためには、どのような知識と技量が求められるのでしょうか。講師の体験を交えながら、超難関といわれる国家試験をひもときます。



## 『三国志』の世界 - 英雄の虚像と実像 -

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午後2:00～3:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料600円  
講師：愛知学院大学 文学部 教授 松下憲一

物語として有名な『三国志』の世界。本来の『三国志』は、中国・西晋代の陳寿の撰による歴史書です。2世紀の中国で、魏・呉・蜀の三国が覇を競い、群雄割拠した三国時代の実力者、曹操・劉備・孫権は、歴史書『三国志』には、どのように記されているのでしょうか。歴史書としての『三国志』の特徴とその世界観をわかりやすく解説します。

11/17(土)	<b>歴史書『三国志』</b> 『三国志』と呼ばれるものには、歴史書として書かれた本来の『三国志』の他に、明代に小説として書かれた『三国志演義』があります。講座では、歴史書としての『三国志』を取り上げ、いつどのように書かれたのか。その特徴はどこにあるのかを考えます。
12/1(土)	<b>『三国志』と創業の君主</b> 三国それぞれの創業の君主、曹操(魏)、劉備(蜀)、孫権(呉)。彼らはさまざまなイメージで語られていますが、歴史書『三国志』には、いかなる人物として描かれているのでしょうか。そしてそれは実像なのかを考えます。
12/8(土)	<b>三顧の礼の真実</b> 蜀の劉備は、三顧の礼をもって、若き諸葛亮を軍師として迎えたと言われます。二人の出会いとして有名な三顧の礼を題材とし、三顧の礼は本当にあったのか、文献史料の分析を通じて考えます。

# 『蜻蛉日記』

- 女性の生き方 玉の輿は幸せか? -

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午後2:00~3:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料600円  
講師：小説家 博士(文学) 奥山景布子

千年の時をさかのぼって、古典の世界へ。『蜻蛉日記』に触れてみましょう。この作品は、現存する平安文学のうち、女性の手になる日記(手記)スタイルとしては最も古く、『源氏物語』にも大きな影響を与えました。大臣家の御曹司と自らの結婚生活をリアルに描き出したもので、思うに任せぬ日々悩む筆者の姿は、現代人にも共感しうる部分が多いと思います。

1/19(土)	<p><b>不幸自慢は幸せ自慢? -[女の一人語り]とは</b></p> <p>『蜻蛉日記』の筆者は、「藤原倫寧女(ともやすのむすめ)」「藤原道綱母(みちつなののはは)」と呼ばれ、本名は伝わっていません。娘から妻、母となる過程で味わった喜怒哀楽を、どのような表現で描こうとしたのかに注目します。</p>
2/16(土)	<p><b>「身のほど」を知る - 書く女の苦しみ</b></p> <p>当時の社会では、貴族女性が生きる選択肢は少なく、筆者が歩んだ道は、傍から見れば恵まれた人生のはずが、むしろ行き場のない悲しみ、苦しみは、どうにもならず深まっていきます。書くことは筆者に何をもたらしたのかを探っていきます。</p>
3/16(土)	<p><b>ユーモアと諦め - 作家にならなかった女の選択</b></p> <p>『蜻蛉日記』下巻では、自身の老いや、次第に淡々としたものになってくる夫婦関係、息子や新たに迎えた養女のエピソードなどを描いています。人生の後半にさしかかり、日記の表現方法にも変化が…。次第に書くことから離れていく、「日記の終わり方」を読み解いていきます。</p>



# 「正倉院文書」が語る 奈良時代の暮らし

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午前10:00~11:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料600円  
講師：愛知県立大学 日本文化学部 教授 丸山裕美子

奈良・東大寺の正倉院には、1万点を超える古代の文書が保存されています。これが正倉院文書です。正倉院文書は偶然に残ったもので、内容は戸籍や事務帳簿、個人の提出書類など多彩です。正倉院文書を読み解きながら、『続日本紀』などの正史からは窺うことのできない、古代の制度の実態や、人々の暮らしぶりを紹介します。

1/25(金)	<p><b>古代の戸籍</b></p> <p>古代国家は、戸籍と計帳によってすべての人を把握していました。正倉院文書のなかには、702年の御野(みの)国(今の岐阜県)の戸籍が残っています。古代の岐阜県にはどんな人々が住んでいたのでしょうか? 戸籍・計帳の制度と、古代社会の実態について紹介します。</p>
2/22(金)	<p><b>古代のローン申請書</b></p> <p>正倉院文書の多くは、奈良時代の東大寺写経所で働く人々の労務管理のための帳簿です。試験による採用、出来高払いの給与、給食、高利のローンなど、古代の都で働く人々の仕事ぶりを紹介します。</p>
3/15(金)	<p><b>古代の休暇願</b></p> <p>正倉院文書のなかには、働く人々が提出した休暇願や欠勤届などが100通以上残っています。自身の病気、子どもや親族の介護、氏族の祭祀、田租を納めるため、泥棒に入られたためなど、さまざまな理由で休暇が申請されています。いつの時代も変わらない人々の暮らしぶりを紹介します。</p>

# 「院政」とは何か

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午後2:00~3:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料600円  
講師：皇學館大学 文学部 教授 岡野友彦

天皇陛下が「上皇」となられる日が近づく中で、「院政」の復活を懸念する声すら聞こえます。しかし「院政」は、決して皇位を退いた前天皇が、その後も影響力を保ち続けたなどといった単純な政治的事件ではありません。中世ならではの統治システムである「院政」とは何だったか。その問題を「荘園制」という側面から探ります。

1/13(日)	<p><b>荘園制とはいかなるものか</b></p> <p>「荘園制」というと「私的大土地所有」と思っている人が多いと思いますが、これは実は明白な間違いです。中世的国土領有システムとしての「荘園制」について、わかりやすく説明することから、「院政」の本質に迫ります。</p>
2/10(日)	<p><b>院政はなぜ始まったか</b></p> <p>後三条天皇の出した荘園整理令で荘園は終わったと勘違いしている人がいます。しかし本格的な「荘園制」は、この延久の荘園整理令(1069)に始まりました。「荘園制」と「院政」の始まりには、深い関係があったのです。</p>
3/10(日)	<p><b>院政はなぜ続いたか</b></p> <p>「院政」は平氏政権や鎌倉幕府・室町幕府が成立しても終わることなく、若干の寸断を挟みつつ、応仁の乱勃発後の文明2年(1470)まで続きました。中世という時代を「院領荘園」の伝領という側面から眺めてみましょう。</p>



# 時代を創った日本画家

- 東山魁夷・福田平八郎・上村松園 -

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午前 10:00~11:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料 600 円  
講師：美術史家・四日市市立博物館館長 吉田俊英

古代から江戸時代までの伝統絵画（「やまと絵」や「水墨画」など）の様式や技法を汲んで明治期に誕生した「日本画」。その代表的な画家の中から、大きな足跡を残し、後続の画家にも影響を与え続けている三人「東山魁夷」「福田平八郎」「上村松園」を取り上げます。その個性的な画風を確立する過程を追いながら、画家の人間性と「日本画」の魅力に迫ります。

10/27(土)	<p><b>東山魁夷 (1908-1999) - 東西への旅 -</b></p> <p>生誕 110 年を迎え、今秋、京都・東京で大回顧展が開かれる東山魁夷は、「国民的画家」と称されるほど人気があり、戦後の「日本画」を代表するひとりです。自然の風景を客観的な描写ではなく、作者の心情の反映としてとらえ、青を基調とした静謐な画風は、多くの人々の共感を呼びました。</p>
11/17(土)	<p><b>福田平八郎 (1892-1974) - 生命力の色と形 -</b></p> <p>「漣」「筍」「雨」など、斬新かつ洗練された画風で時代を画した福田平八郎は、徹底した自然観察と写生を基に、清澄な色彩と簡潔で抽象的な形を用いて、自然の本質をつかもうとしました。画壇に新風を吹き込み、「日本画」をモダンで魅力あるものとした画家の足跡をたどります。</p>
12/8(土)	<p><b>上村松園 (1875-1949) - 生きる姿勢を絵筆に托して -</b></p> <p>女性が絵画の世界で生きていくことが困難であった時代、上村松園は多くの制約と戦い、清明で格調高い芸術を創造し、日本の「美人画」を代表する画家となりました。2019 年 4 月から浜松市美術館で開催される「上村松園展」を監修する講師が、見る人を惹きつけてやまない松園絵画の魅力をお伝えします。</p>

# 古寺巡礼

- 奈良の仏像に出会う -

定員・回数：60人・3回  
時間・場所：午後 2:00~3:30・生涯学習センター研修室  
費用：受講料 600 円  
講師：東海学園大学 人文学部 准教授 小野佳代

奈良の古寺として名高い法隆寺、興福寺、東大寺を取り上げ、各寺院の歴史を踏まえながら、伝来する仏像の由緒や特徴について解説します。法隆寺には聖徳太子ゆかりの飛鳥仏が多く、興福寺には藤原氏ゆかりの天平仏や鎌倉仏、そして東大寺には国家仏教の象徴ともいえる大仏のほか、運慶・快慶の名作が伝来しています。

1/26(土)	<p><b>法隆寺の仏像に出会う</b></p> <p>法隆寺には聖徳太子ゆかりの飛鳥時代の仏像が伝来しています。顔にはアルカイックスマイル（古式の微笑）を浮かべ、謎めいた雰囲気なたたえています。法隆寺の本尊・釈迦三尊像をはじめ、夢殿の救世観音像、百済観音像、夢違観音像など飛鳥・白鳳時代の仏像を取り上げます。</p>
2/23(土)	<p><b>興福寺の仏像に出会う</b></p> <p>興福寺には藤原不比等の娘（光明皇后）ゆかりの天平時代の仏像のほか、鎌倉時代の慶派仏師の仏像が伝来しています。中でも天平の阿修羅像は絶大な人気を集めています。また仏師・運慶の晩年の傑作とされる北円堂の仏像群も見逃せません。これら興福寺の名作をご紹介します。</p>
3/23(土)	<p><b>東大寺の仏像に出会う</b></p> <p>東大寺には聖武天皇が発願した大仏（現存像は復興像）のほか、天平時代の名作が法華堂、戒壇院に伝わっています。また南大門には運慶・快慶らによる、高さ 8 メートルを越える巨大な仁王像が安置されています。天平時代の名作と鎌倉時代の慶派仏師の代表作を取り上げます。</p>

